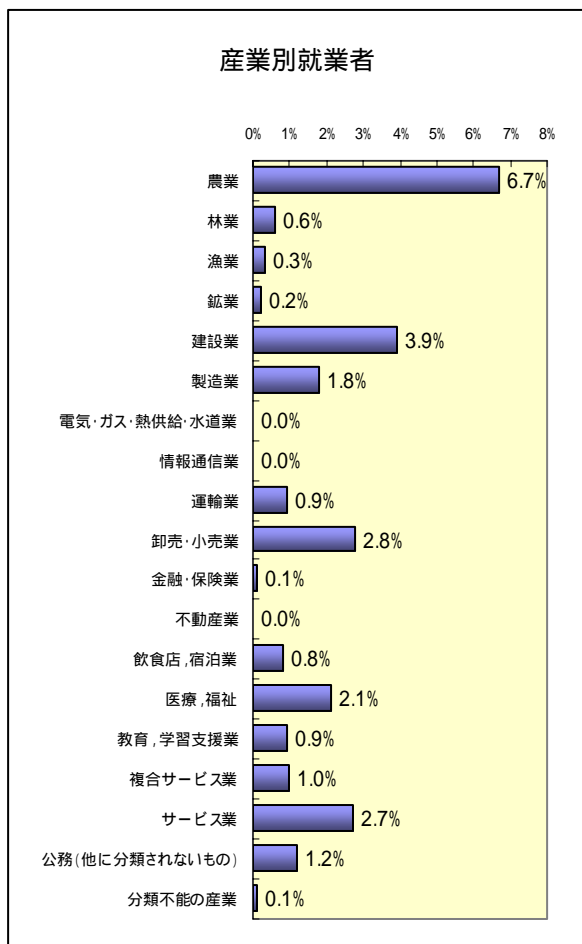


## むかわ町

### 1) 地域の概要



むかわ町は、道央圏の南方に位置し、東西及び北部の三方が日高山脈系の外縁部に囲まれ、南部は太平洋に面し、サケやシシャモが遡上する一級河川鶴川が南北に縦走しており、海・山・川と多彩な自然環境に恵まれています。

農業では、稲作のほか野菜や花卉、メロン、肉牛などの複合経営が行われています。また、サラブレッドも生産されています。

漁業では、シシャモの産地であり、「鶴川ししゃも」の地域ブランドとして商標登録が認可され、他産地との差別化が進んでいるほか、サケ、ホッキ、ホタテ等の栽培漁業が盛んに行われていますが、漁場の保全として森や山を守る必要があることから、漁業者などが中心となり植樹活動も行われています。

林業では、二酸化炭素吸収など多様な機能を有する森林を守り育てていくために、苫小牧広域森林組合穂別本所が中心となり伐採と植林のシステムづくりを進めています。なかでも森林資源の木質ペレットとしての積極的な利活用により、循環型社会の構築が進められています。

### 2) クリーンエネルギー導入による地域振興の状況

#### 木質ペレットの利用拡大による林産業の振興とエネルギーの自給

むかわ町は、町面積の約8割を占める森林が、災害の防止や水資源の確保、生活環境や農地、

沿岸漁場の保全などに重要な役割を果たしていることから、安心して暮らせる生活基盤の確保や、地域に根ざした基幹産業である農林水産業の振興のために、森林を守り育て、地域づくりに活かしていく様々な取組を進めています。森林の恵みを地域で有効に活用し、可能な限り地域で循環させる取組の一つとして、木質ペレットの利用拡大による林産業の振興とエネルギーの自給が挙げられます。

### 一般家庭などに62台のペレットストーブ

木質ペレット導入における取組としては、平成16年度にNEDOの「地域新エネルギービジョン」を策定、平成17年度には「木質バイオマス研究会」を設立し、事業化に向けた検討を行いました。平成18年度には、苫小牧広域森林組合穂別本所において木質ペレット製造施設を導入、ペレット生産を開始し、むかわ町国民健康保険穂別診療所にペレットボイラーを、また役場庁舎ほか3施設にペレットストーブを導入しています。平成21年度末現在、診療所、役場庁舎、福祉施設、農業用ビニルハウスに計5基のペレットボイラー、公共施設、事業所、一般家庭などに62台のペレットストーブが導入されています。

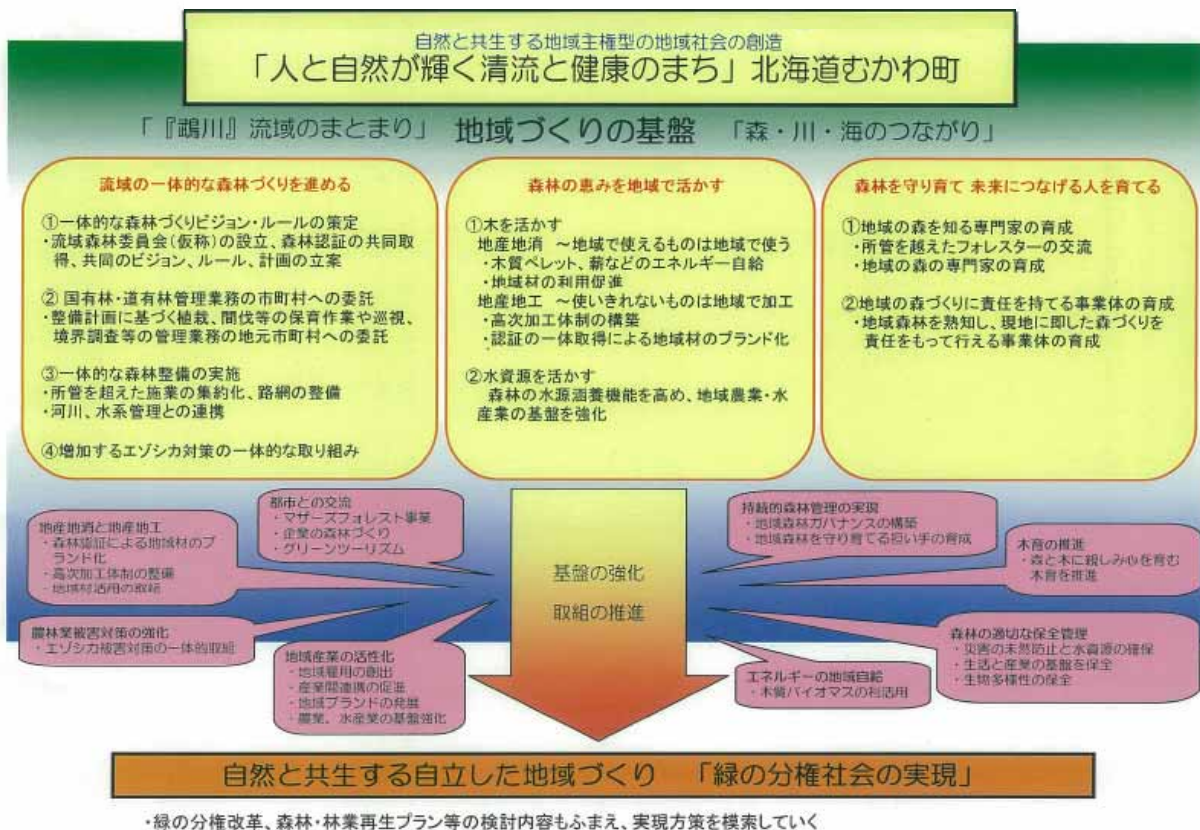
### 需要の拡大を目指し家庭での購入へ補助

ペレットは、間伐材、林地残材、製材工場から発生するオガコやバークを原料として製造しています。消費量は200t/年程度ですが、需要の拡大を目指し500t/年を目標としているほか、町民を対象としたペレットストーブ購入への補助事業を行っています。

### 関連産業も創出

木質ペレット導入により、配送、ストーブ販売・メンテナンス等の関連産業も創出されています。

### <森づくりの方向性を示したビジョン>



### 3) クリーンエネルギー導入事例

#### 苫小牧広域森林組合（木質ペレット製造）

平成18年度「木質バイオマス資源活用促進事業」（林野庁）を活用し、実施しています。本工場では、林地残材や製材工場から発生するオガ粉やバークを粉砕し、ペレットを生産しています。原料は生木ですが、水分量が高すぎてペレットの形成に適さないことから、ロータリーキルン式の乾燥機で水分調整を行っています。乾燥熱源には、形成不良のペレットやペレット製品の廃材（ダスト）を利用して、乾燥された原料は、粉砕し、粒度調整を行ってから機械で形成します。その後は、冷却機で外気温まで冷却し、製品選別機で規格外品を取り除き、出荷します。

<原料（オガ粉）>



<原料（バーク）>



<乾燥機定量供給機>



生原料を乾燥機に定量供給します。

<乾燥炉>



燃料は、工場内で生産された規格外のペレットなどを燃焼させて、乾燥用熱風を発生させます。

<乾燥機>



水分の高い原料を乾燥させます。

<成形機>



オガ粉、バークを固めてペレットに成形します。

<成形機定量供給機>



乾燥したペレット原料を成形機に定量ずつ送ります。

<粉砕機>



オガ粉やバーク（樹皮）を粉砕して、粒度調節をします。

<第一粉砕機定量供給機>



オガ粉やバーク（樹皮）を粉砕機に定量ずつ送ります。



<冷却機>



ペレットを外気温程度にまで冷却します。

<製品選別機>



ペレットから、規格外ペレットやダストを取り除きます。

<梱包定量供給機>



ペレットの袋詰めをします。

